

# 「福島汚染水海洋放流中止・ 日韓市民徒歩行進」貫徹す!!

鎌野 保雄

それは6月11日の李元栄<sup>イウォンヨン</sup>氏からの突然の要請メールから始まった。

「最近、原発汚染水の海洋投機問題が深刻です。私は2月に定年退職をしたので時間がたくさんあります。それで近いうちにソウルへ釜山そして下関へ東京の1500km（1600km相当）を約2カ月半かけて徒歩行進しながら海洋投機反対キャンペーンを展開したらどうかと考えています。鎌野先生のご意見はいかがでしょう？」（原文に忠実に。韓国では年上を先生と呼ぶ）  
私はいろいろとなすべき課題を抱えていて難しかったが、出来るだけ応援する旨を



李元栄さん

65歳。原発危険公益情報センター代表、韓国脱核エネルギー学会副会長、前水原大学教授（都市工学）

伝え、これに取り組むことになった。

即答した理由は、2017年3月の「上関原発を建てさせない山口県民大集会」で李元栄さんに初めて会い、彼が原発を世界から無くすためにソウルからローマまで歩き、ローマ教皇やダライ・ラマ法皇にも会って世界的宗教指導者の理解と具体的な協力を得る巡礼の旅をした時に（ローマ教皇には会えなかったが）、翻訳のお手伝いを仲間6人とした経験があり、また翻訳作業ならやれるという確信があったからだ。その仲間ほとんどが「日本とコリアを結ぶ会（ニコリ会）・下関」のメンバーであり、私は同会の代表として今回も協力をお願いし翻訳を4名ですることになり、早速6月18日から開始した。

## ソウルから大邱へ

6月18日、ソウルを出発した「福島原発汚染水放流中止 日韓市民徒歩行進団」日程表によれば、下関は7月16日とのこと。「上関原発を建てさせない山口県民ネット

ワーク」に知らせると早速Aさんがチラシをつくり、メーリングリストで県内の主要な活動者に知らせることが出来た。

韓国内は約500キロ、28日間の徒歩行進だった。ネットを介して韓国の様子を見ると韓国の仏教界の「仏教ドットコム」とカトリックの「カトリックプレス」そして民主化運動から生まれたネットメディア「ハンギョレ・オン」で今回の行動が紹介されていた。

特に今回の韓国における注目は、この「韓日市民徒歩行進団」の後援会長が崔鳳泰<sup>チュベソク</sup>さんだということである。彼は大韓弁護士会・日帝被害者人権特別委員会委員長であり、徴用工裁判において韓国大法院で原告を勝訴させた弁護士である。

また韓国のお寺や教会、修道院が宿泊場所になつている。韓国の宗教家、環境運動団体の指導者、前ソウル市教育監（公選された教育長）など韓国の原発問題に関心を持つ知識人たちがこの「汚染水放流反対」の意思を明らかにしていることが分かる。

7月6日、大邱市内では集会とデモが取り組まれたがその中心に崔鳳泰氏が堂々と立っており、行動する弁護士であることが分かる。大邱市は尹錫悦<sup>ユンソクニョク</sup>大統領の地盤であるが、日本の汚染水放流を容認した尹大統領に対する批判の抗議行動でもあった。参

加者には大邱環境運動連合代表もいた(韓国各地にある環境運動連合はその規模も大きく、各地の環境問題の解決に大きな力を発揮するNGO団体として有名である)。

7月7日、その大邱市内を行進している中に非正規教授労働組副委員長クオン・オグン先生が紹介されている。非正規教授の労働組というのも日本では聞いたことがないが、大学教授も非正規労働者の労働を持つことが興味深い。

7月12日の蔚山(ウルサン)市内の徒歩行進の横を通る韓国労働運動の大デモの写真が紹介されているが写真の労働組合員の表情は真剣そのものだ。日本とはだいぶ違うように見える。

7月13日のセウル原発と古里(コリ)原発(これは並んで建っているが行政区が違うため名前が異なる)。この10基以上並ぶ原発を「潜在的核地雷」と表現しているがまさにその通りである。いったんここが事故や戦乱で破壊されればその位置からして風下の日本列島はもはや完全に被曝列島と化すことになる。その恐ろしさを感じる現場に立つのは李スンリョル氏(嶺南大学前教授会議長、大邱環境運動連合常任代表)である。これらの原発は韓国第2の都市釜山市の中心部から約25kmにあり、その影響は既に原発周辺で起きている、父母がガン、子どもが先天性障がい児

となった家族が古里原発を運営する電力会社を提訴し、原告が勝訴している。原発は通常運転でもそういう深刻な被害をもたらすことが認められている。日本でも玄海原発の周辺に住む人々に明らかにガンが多発していることも知られている。

### 下関に到着する

7月16日、朝7時40分に関釜フェリーが接岸するので私たちは7時45分に集まり、李元栄氏がフェリーターミナルから出て来るのを待つ。しかしこの日は韓国からの乗客が多くて結局9時過ぎになった。その間集まった人が持つボードに書かれたメッセージに共感する韓国人客がカンパをくれたりもした。16名の人々が李さんを歓迎し、そこから早速私たちは行進を始め、新下関駅までの8・5kmを歩く。暑い日差しの中をひたすら歩いた。私は先頭に立って「汚染水

流すな」「原発反対」と声を上げみんなも唱和して行進した。時折日陰で休憩を取る。宇部から来てくれたMさんは家族5人での参加だった。小さい子ども3人も一緒

に最後まで歩き通した。子どもたちがやがて成長した時に、この時のことを思い出してきたと親の正しさを知らることになるだろう。新下関駅を目前にする峠を越えてさわや

서울에서 도쿄까지  
ソウルから東京まで  
From Seoul To Tokyo

**방사능오염수 방류중지 한일시민 도보행진**  
放射能汚染水(処理水)放流中止 日韓市民 徒歩行進  
Korean and Japanese Citizens Walking March  
to Prevent Dumping of Radioactive Water

From Seoul To Busan 500km  
2023年6月18日-7月15日

From Shimonoseki To Tokyo 1100km  
2023年7月16日-9月11日

방사능오염수(처리수)를 버릴지 말지는 국민이 직접 의사결정해야 합니다. 한국 일본의 시민들이 함께 1600km를 걸으면서 그 뜻을 서간문집에 담아 일본 국회와 내각 그리고 한국 정부에도 전달코자 합니다.  
放射能汚染水(処理水)를捨ててはならないとは国民が直接意思決定しなければなりません。韓国と日本の市民たちが一緒に1600kmを歩きながらその意思を書簡に込め、日本の国会と内閣そして韓国政府にも渡すことを目指します。

Seoul

서울출발  
6월18일(일)  
광화문  
이순신장군동상

Busan

부산항출발  
7월15일(토) 출발 17:30

Tokyo

東京日本国會議事堂  
到着9月11日(月)  
書簡文集傳達予定

Shimonoseki

下関港行進出発  
7月16日(日)08:30

Hiroshima

Osaka

Nagoya

참여문의 010-4234-2134  
leewysu@gmail.com  
이원영 생명탈핵심크로드순례단장

参加問合せ: +82-10-4234-2134  
leewysu@gmail.com 李元栄  
yksalan2010@aeauone-net.jp Kwano Yasuo

生命脱核シクルート  
Home Page QR code  
생명탈핵심크로드  
Daum 카페

李元栄氏が歩いたソウル・東京間 1600km の行程

かな風が吹きわたる所で李さんが写真を撮る。そこはなんと弥生時代の環濠集落の代表的遺跡、郷台地が納まる位置で、約2千年前に朝鮮から渡来した人々が定住した場所である。

日本国内の旅はこうして始まった。各地で様々な方々にご協力ご支援をいただくことが出来たのだが、李さんも私も東京までのルートは知り合いもほとんど無い旅立ちだった。そして私は李さんの行進日誌を4人で翻訳するだけでなく連絡係もすることになった。

## 宇部から徳山へ

7月19日の宇部市床波駅へのコースには「長生炭鉱水没事故」（1942年2月3日）の現場の海と追悼ひろばがあった。

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の井上洋子代表初め、会の主要メンバーの人々が出迎えた。李さんはこの事故についてはすでに良くご存じであった。同様の水没事故が当時、既に宇部市内の他の炭鉱でも起きて、多くの犠牲者を出していた。長生炭鉱水没事故は、海上を行くポンポン船の音が聞こえるような海底の坑道に海水が漏出して起きた大事故である。183名の犠牲者のうち朝鮮人が136名、日本人が47名。死んだ人は日帝に殺されたも同然

だった。

この日、『宇部日報』という夕刊紙が取材に来てくれて、カラー写真入りで報じてくれた。7月16日の下関入港について、3度市政記者クラブにお知らせを入れたが1社も来なかった。

7月22日は徳山駅で李さんの記者会見の場をマスコミにセットしたというので徳山駅に飛んで行ったら、『日刊新周南』というタブロイド判の新聞社の記者だけが来ていた。その記事は24日付けの記事となり、その記者が直接、行進中の李さんに大竹駅まで届けてくれた。徳山駅の取材後、李さんを家庭料理でもてなしたいと脱原発同志のHさんが周南市内のご自宅に招いてくれて、行進した人々と一緒に会食を楽しんだ。仲間内の和やかな場となった。

山口県から広島県へとバトンタッチし、各地でこのような同行ともてなしが行なわれ、それが東京へとつながっていった。各地のことをお知らせするには圧倒的に紙面が足りないのです、特に京都、名古屋、浜松、そして最後の9月11日の東京行動を紹介したい。

## 京都から名古屋、そして浜松へ

原発銀座・福井県を背に琵琶湖を持つ京都、滋賀県の脱核同志の取り組みの反応は

素早かった。京都は8月13日に京都駅そばで「汚染水流すな」の集会を開き1000人を越える人々が市内目抜き通りをデモ行進した。韓国語での李さんのアピールをすぐに通訳が日本語に訳してアピールを繰り返すし、街行く人々の共感を呼び、目を惹きつけたと李さんがその日誌に記している。

また滋賀県では実行委員会を作り滋賀ルートに応援キャラバンを付けて同行する予定を組んでくれたが台風7号の直撃に遭い、それが出来なかったものの稲村守さんがしつかり岐阜までのルートをフォローしてください。京都も滋賀も毎月1回琵琶湖周辺で長距離徒步行進をして老朽原発再稼働反対を訴えて来ており、「汚染水流すな」は巨大な命の水が琵琶湖を抱えて重要なテーマと受けとめられている。

名古屋市も実行委員会をつくり綿密な準備がされ河田昌東氏（分子生物学者）と李さんの講演会もあり、広く問題を共有されて街頭にも出て行進され、ここで朝日新聞名古屋版に出た。

近くに浜岡原発を抱える浜松駅前では毎日脱原発のスタンディングアピールが行なわれており、8月27日の李さんのアピールはたどたどしい日本語からハングルに変わるや日本の主権者の責任を問う内容となった。日本政府が間違った判断をした場合に

主権者は黙っていて良いのか、子どもたちの未来の命への大人の責任を問う内容だった。この動画を撮り日本語字幕を付けて配信するようにしてくれたのが竹内康人さんだった。李さんは竹内さんの所に2泊され手料理をいただき交流をされたのだが、竹内さんは著名な在野の歴史研究者であり、日本全国各地での朝鮮人徴用工が強制労働させられた場所、人数の分かる本をつくられた。

## 最終地点・国会へ

ソウルから東京の最終地点・国会議事堂では、衆議院議長に86日間・1600kmの徒步行進の道々、書いてもらった3冊の書簡文集を手渡すという目標があった。東京にそのようなツテはなかったが、京都で「汚染水流すな」の8・13集会・デモを主催された木原壮林さん（元日本原子力研究所、大衆教授）が東京の「経産省前テントひろば」の木村雅英さんにコンタクトをして、木村さんが脱核派議員に当たってくれたのだった。残念ながら外国人からの請願、陳情は受け取れないとのこと、私が陳情書を書き、その提出人となり、李さんは他に3名の日本人と並んで記名し、書簡文集は陳情書に付して提出することになった。しかし、この陳情書を細田議長は病氣理由で、



書簡文集を手渡す李元栄さん

海江田副議長も受け取れないということ、衆議院事務局職員に手渡すこととなった。李さんはそれならこの大切な書簡文集を手放したくないとその書簡文を一枚一枚写真に収めUSBに保存したものを渡すことになった。USBだけでは貧相なのでHさんが立派な玉手箱のような入れ物を用意してくれてこれに入れて体裁を整えることができた。

こうして新橋駅SL広場に所狭しと集

まったおよそ200名の人々が歩道を行進していくのであった。旗を持ち、横断幕やボードを掲げて、車いすも押されて進むなかなか迫力に満ちた大行進となった。警官が沢山出動していて「旗を下げてください」というが非暴力平和行動は他者の迷惑とならぬようにして進む人波となり歩道を国会に向かった。途中東電本店前で「経産省前テントひろば」による抗議声明文が読み上げられ、抗議文を提出してから国会議事堂前へ到着したのだった。

事前に陳情書と書簡文集を衆議院第一議員会館前で渡すということにしていたが、現地の歩道は人がいっぱいであり、李さんは衆議院会館の敷地内で渡したいと意向表明した。しかし国会事務局員が応じないため、しばらく押し問答となったが、そこに大橋ゆう子参院議員が来て議員会館内で関係者が渡すということになり、李さんと通訳と私たち7名が入ることになった。敷地内に入り建物の玄関先で李さんが中で受け渡しの写真を撮りたいというと、事務局員は写真は規定上撮れないと言う。そこでまた議論となり大橋議員がでは自分の部屋でならどうかということ、参議院議員会館内の大橋議員の部屋で手渡すことになった。陳情書は私が読みあげ、書簡文集（コピー）は李元栄さんが手渡したのだった。

さらに韓国から来られた丁永勲<sup>チンヨンフン</sup>さんが集めた「核汚染水放流中斷韓国市民宣言」の賛同団体(約130)の名称を読みあげることになった。こうして陳情書、書簡文集及び「核汚染水の放流中斷韓国市民宣言」の提出を終えたのだった。

この日はさらに「経産省前テントひろば」の12年目の大集会でもあり、そこに福島から李さんの行動に連帯して参加された市民グループの代表の方のお話、有名な浪江の「希望の牧場」の吉沢さんも来られて貴重な福島での汚染水を証明する魚釣り作戦を聞くことが出来た。

そして夜7時から『李元栄さんのお話を聴く夕べ』を日比谷図書館地下ホールで開いた。急遽の場の設定で宣伝も行き届かないなかで60名が参加して行なわれた。そして汚染水放出がいかに非科学的かつ非倫理的犯罪行為であるかを認識し合った。こうして「放射性汚染水を流してはならない」の日韓を結ぶ一大キャンペーンは草の根民衆の、この行動に参加した日本だけで700名以上の人々の心に刻まれ、マスクミの偏向報道にごまかされない市民をつくる事が出来たと思う。

下関にもどり、近所の公園で遊ぶ9歳の子どもに「何歳まで生きたい?」と聞けば「110歳、後100年生きたい」とはっ

きりと答えた。汚染水を流し続ければともそうはいかない。

「汚染水」を「処理水」と偽り放出する行為はまさに「裸の王様」と同じで放射能汚染水は汚染水であって処理水とはならない。これは子ども達や世界の人々を放射能内部被ばくさせる日本の「犯罪行為」に他ならない。今はまだすぐには表れないにしてもこれが継続していく時、やがてその毒の効果が表れてくるだろう。水俣病は遺伝はしなかったが、放射性毒物は細胞のDNAを破壊するため遺伝することになる。マスクミがほとんど無視するなかで、私たちは真実を知り、これを拡げていくべき責務を負わされたことになる。

今回の行動を通じて全国各地にこれだけのまともな人々が居ることに心強くさせられ、その闘い方を実践的に学ぶ貴重な経験が出来た。今回の「福島汚染水海洋放流中止・日韓市民徒步行進」の貫徹にご参加、ご支援いただいた方々と共に喜び合いたい。

李元栄氏の行進日誌は下記のQRコードで読めます。



(くわの・やすお/日本と 코리아 を結ぶ会(ニッくり会)代表)

最終行程に参加した全国、そして韓国の人々とともに

